



第5号

新米町長の奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～ 【福島商業高校存続の目途に少し安堵・・・】

暦が二月に入り、岩部方面でやりいか敷網漁によるヤリイカが、平成十九年以來の豊漁となっておりま

す。港に朝早く電光の明かりをつけて漁船が接岸されると、家族や近所の手伝いの人たちで、浜は久々ににぎわっております。

今年一年間、浜が活気で沢々と賑わうような漁模様が続くことを期待しております。

一月二十四日(日)の早朝に、東京都墨田区石原にある九重部屋を訪し、九重親方と親しく懇談させていただきました。九重親方には、夏合宿などの引き続きのご協力、東京都墨田区との交流に向けた協力要請、町広報の表題の揮毫等をお願いいたしました。

また、夜には九重部屋後援会主催の千秋楽パーティー(会場：浅草ビューホテル)に参加をさせていただきます、勝野横綱審議

委員などの後援会の方々と親交を深めてまいりました。

一月二十八日(木)に、福島商業高等学校の存続を求める要望活動として、議会から平野副議長

及び川村総務教育常任委員長、教育委員会から平沼委員長及び盛川教育長と私とで札幌の道議会及び道庁に出向き、遠藤道議会議長及び高橋はるみ知事並びに柴田教育長等に陳情を行ってきました。

当日は、あいにく遠藤議長等は不在でしたが、山谷副知事、今井総合教育担当局長、杉本学校教育監及び成田新しい高校づくり推進室長に対して、直接要望することができました。

【要望項目】

一 「地方創生」の観点から、北海道の地域に存在する小規模道立高等学校を、地域の実情に合わせて存続された

二 平成十八年に策定さ

れた「新たな高校教育に関する指針」の見直しを行い、地域キャンパス校の再編対象人数を現在の二十人から五人に改められたいこと。

三 上記により北海道福島商業高等学校の存続を要望いたします。

以上の三点を重点に要望し、山谷副知事等から道においては現在、中間的なもので方向性を見直す検討をしている旨の回答をいただき、少し安堵してきたところであります。

しかし、新聞の報道にもありますように、今年の高校の一次応募状況が十五人となっており、今後も厳しい状況が続くことが予想されます。

福島商業高校は私の母校でもあり、愛すべき校歌を歌い続けるために、さらなる魅力づくりに向けて、高校存続検討委員会などの関係者と知恵を出し合って対策を講ずる

ことといたします。

昨年、十二月二十一日松浦町内会を皮切りに行っておりました「第五次福島町総合計画等」の説明会が、二月一日岩部町内会をもって終えることができました。全町十七会場で二百二十二人の参加がありました。

多くの方々に参加をいただき、貴重な意見・提言等をいただき、感謝申し上げます。ありがとうございました。

中国の思想家孔子の言葉で有名な、吾十有五にして学に志し、三十にして立つ、四十にして惑わず、五十にして天命を知る、六十にして耳順(したが)う、とあります。孔子のように自分が還暦を迎えて、六十歳に達して人のどんな言葉も素直に聞けるようになったのかと・・・。

七十歳をめざし、思うままにふるまっても、道理を外れることのないようにしたいものです。